

第4世代地域熱供給4DHセミナーin東京



パリ協定を受けて世界的に熱分野での再生可能エネルギーへの転換が進み始めています。デンマークでは早くから効率的なエネルギー利用のために地域分散型の地域熱供給システムを各地域に導入し、再生可能エネルギーへの転換をいち早く進めて来ました。本セミナーでは、デンマークでの先進的な第4世代地域熱供給の具体的な取り組みをデンマークの専門家から聞くとともに、日本国内での地域熱供給への取り組みについてご紹介します。ご関心のある多くの皆様のご参加をお待ちしています。

2019年11月1日

金

14:00-16:30
(開場:13:30)

主婦会館プラザエフ9F「スズラン」(参加無料・要申込)

(東京都千代田区六番町15) JR四ツ谷駅下車徒歩1分、東京メトロ丸の内線・南北線四ツ谷駅下車

主催：認定NPO法人環境エネルギー政策研究所 (ISEP) 第4世代地域熱供給4DHフォーラム

共催：一般社団法人全国ご当地エネルギー協会

協力：デンマーク大使館

後援：日本熱供給事業協会、都市環境エネルギー協会、日本木質バイオマスエネルギー協会、日本太陽エネルギー学会ほか

第1部

「デンマークの第4世代地域熱供給」

田中いずみ (デンマーク大使館) 「デンマークのエネルギー政策と地域熱供給」

Jens Birch Jensen (PlanEnergi社) 「デンマークの第4世代地域熱供給」

Kamstrup社 「デンマークのスマートエネルギーシステム」

LINKA Energy社 「デンマークのバイオマス熱利用の取組み」

第2部

「日本国内での第4世代地域熱供給への取組み」

中田俊彦 (東北大学教授)

「国内での地域熱供給普及の可能性」

飯田哲也 (環境エネルギー政策研究所所長)

「第4世代地域熱供給4DHフォーラムの取組み」

Institute for Sustainable Energy Policies **isep**

お申込み

<https://www.isep.or.jp/event/12202>



※本イベントは独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。



連絡先：認定NPO法人環境エネルギー政策研究所 (ISEP) TEL03-3355-2200 FAX03-3355-2205 <https://www.isep.or.jp/>



田中いづみ デンマーク大使館上席商務官（エネルギー・環境担当）

デンマーク外務省 The Trade Council（商務部門）に所属、エネルギー・環境分野において、デンマーク企業の日本進出を含め、デンマークの技術や考え方を日本で導入するための糸口を提供している。1998年カリフォルニア大学天然資源学部環境科学・マネジメント・政策科終了後、株式会社東芝で環境技術の研究、スウェーデン大使館で科学技術、環境、エネルギー政策の分析に従事。2008年東北大学環境科学研究科博士前期課程修了、修士。2014年1月から現職。



イェンス・イェンセン (Jens Birch Jensen)

PlanEnergi社プロジェクト・マネージャ

デンマークのPlanEnergi社は自然エネルギーの地域

エネルギー計画で30年余の歴史を持つ非営利組織

で、代表例としてはデンマーク・サムソ島の自然エネルギー100%化の計画から実現まで全てのプロセスを担ってきた。



kamstrup

デンマークのKamstrup社は、インテリジェントなエネルギーおよび水道の計量ソリューションの世界有数のサプライヤです。70年にわたり、世界中のエネルギーと水の消費量を測定および管理するための信頼性の高い、費用対効果の高い方法を提供してきました。



デンマークのLinka Energy社は住宅用から産業用まで、あらゆる用途に対応するバイオマスプラントの世界有数の開発会社。クライアントのニーズに基づいて、選択したバイオマスを効率的に使用して信頼できるソリューションを開発している。



中田俊彦 東北大学 大学院工学研究科 教授

1983年東北大学工学部機械工学科卒業、1985年東北大学大学院工学研究科修士課程修了。同年（財）電力中央研究所に入所し、主査研究員。1993年東北大学から博士（工学）を取得、東北大学工学部助教授。1997年から1998年まで、フルブライト研究員として米国ローレンス・リバモア国立研究所研究員。2006年から現職。自律・分散型エネルギーシステムの分析と設計研究を進めている。

第4世代地域熱供給4DHとは？

第4世代地域熱供給4DHは、デンマークでの100年以上におよぶ地域熱供給の経験の上に築かれ、より低温の温水を用いることでエネルギー効率が向上すると共にも、より多くの再生可能エネルギーや様々な排熱の利用を可能としている。将来、より低エネルギー化が進みエネルギー需要が低下する場合でも、配管システムなどでの熱損失を最小限に抑えることができる。より柔軟なエネルギー貯蔵や供給側と需要側の双方向でのやり取りが可能となり、よりスマートで効率的なエネルギーシステムとなることを目指している。これにより、地域熱供給システムがより多くの地域に適したものとなる可能性があるほか、既存の熱供給システムを拡大し、新たな機能をもたらすことができる。

第4世代地域熱供給4DHフォーラム特集ページ：<https://www.isep.or.jp/4dh-forum/>